

# 小集団での活動を通して

—子どもたち同士の関わる力を育む—

枚方市立蹠蹠西小学校 小林佳穂理

## 1. はじめに

枚方市立蹠蹠西小学校は創立 41 年目で子ども数 638 名、そのうち支援学級に在籍しているのは 18 名である。1 年生 5 名、2 年生 2 名、3 年生 3 名、4 年生 3 名、5 年生 1 名、6 年生 4 名、各学年に 1 名は在籍者がいる。支援学級(以下、ひばり学級とする)では、毎週火曜日の 2 時間目に「合科」の時間としてひばり学級の子どもが集まり活動している。ねらいとしては次に挙げる。

- ① 友だちと一緒に取り組むことの楽しさを知る。
- ② 教え合い、助け合い、励まし合う中で仲間意識を育てる。
- ③ 一人ひとりの子どもが自己肯定感を高められるように取り組む。
- ④ 子どもたちの実態に応じて、各教科の目標や内容に関連させ、既習の学習や生活体験を活かせるように効果的な指導に努める。

学期ごとにひばり担任で話し合いプログラムを決めている。主に野菜の栽培、工作、ドッチビー(運動)、サーキット(運動)、クッキング、工作の発表等、班活動や小集団で活動したりしている。これらの活動を通して、集団で取り組む楽しさを味わったり、子どもたち同士の関わりの中で互いのいいところを見つけたり、互いに成長していくことをめざしている。

## 2. ねらいと方法

ひばり学級では、「合科」の時間を持つことにより、人の話を聞く力、自分から伝える力、ペン、のり、はさみ等日常生活で使う道具の使い方を身につけたり、個々の活動やチームでの活動、班での活動、小集団での活動等、子どもたち同士で協力したり、関わったりする機会を作ることができる。

ひばり学級には自分の思いをはっきり伝えられる子、うまく伝えられない子、自分のペースで取り組む子等、さまざまな個性を持った子どもたちがいる。子どもたちがスムーズに楽しく活動できるようにまた安心して子どもたち同士が関われるように「合科」に取り組む際子どもたちには、次のことを約束している。

- ① 人の話は最後まで聞きます。
- ② 活動を楽しむ。
- ③ 失敗してもおこりません。

④ 最後まで取り組もう。

この活動を通して、人の話を聞く力、ルールを守ること、学年の子どもや他の学年の子どもと関わることができること、縦と横のつながりを築いていきたいと考える。また、班活動や小集団の活動を通して仲間意識や相手のことを思いやる気持ちを育てていきたい。子どもたち同士での関わりの中で互いの良さや互いを知ることで安心して認め合える関係を築いていく方法を子どもたちに修得してほしいと考える。

(1) 取組

ひばり担任で考えた「合科」のプログラムと内容について簡単に紹介する。

・ひばり学級…主に個別・班活動で工作をする。

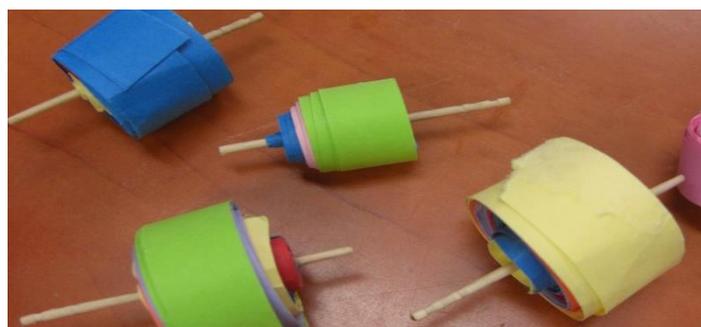
→自己紹介、巨大すごろくづくり、手形もみじの木、傘袋風船、牛乳パックヨーヨー、ツリー等



【手形もみじの木】



【まつぼっくりツリー】



【くるくるコマ】

・体育館・運動場…主にチームや個人で体を動かす活動をする。

→サーキット、ドッチビー、風船ポンポン、シャボン玉、大縄跳び、お店屋さん等

【サーキット】





### ドッチビーをしよう！！

- ① 2人ペアでドッチビーをする
- ② 舞台上に上がって下に投げる
- ③ ドッチビーの試合をする

### やくそく

- ① 順番を守る
- ② 友だちのわる口を言わない
- ③ ルールを守る
- ④ うまくできたら、はく手をする

### 【ドッチビー】

・畑…土づくり、苗植え、収穫等の栽培活動をする。

→さつまいも、ピーマン、トマト、ナス、きゅうり、おくら等

・家庭科室…主に班でクッキングをする。

→野菜ピザ、親子さつまいもクッキング、お別れパーティー



【野菜ピザ】



【親子さつまいもクッキング】

## (2) 目的

さまざまなプログラムの中で、本年度はドッチビーのプログラムを定期的に行った。ドッチビー（柔らかい円盤状の物を投げて活動する）を使ったプログラムの流れは以下の通りである。

### ①説明（3分）

- ・人の話を聞く
- ・質問する

### ②個人（5分）

- ・自分の投げたい方向へ投げることができる
- ・ルールを守る
- ・相手のことを思いやる

### ③ペア（10分）

- ・相手のことを思いやる
- ・相手の方向へ投げることができる
- ・ルールを守る

### ⑤ チーム（ドッチビーの試合）（20分）

- ・協力する
- ・チームを思いやれる
- ・ルールを守る

### ⑤振り返り（数分）

- ・友だちのいいプレイを発表する
- ・自分の感想を伝える

このプログラムを通して、自分ばかりではなく、相手のことを思いやる、ペアである楽しさを感じる、うまくいった時に共有できる等、多くの関わりがあるプログラムと考える。また定期的にすることで上達したり、流れがわかることにより見通しが持てたり、より子どもたちの関わりが増えるのではないかと考えた。

## 3. 結果と考察

4月当初は、新1年生が加わり新しいメンバーやクラス替え等、新しい環境に全体的に落ち着かない様子が見られた。「合科」の時間を通して、ひばり学級の子どもたち同士の関わりを深めていきたいと考えた。

本年度に入り、ドッチビーのプログラムを3回行った。1回目は好きに飛ばして、ペアになっても相手の所には飛ばせず、互いに走り回っている姿が見られた。とりあえず、触れることが嬉しい様に感じた。ドッチビーの試合もドッチビーに触りたくて、同じ子どもや勝負にこだわる子どもが投げることが多く、投げられない子どももいた。2回目は、流れが分かっているためか、一つ一つの行動が速かった。ペアでもコントロールがついてきているようで、相手のいる所に投げることができる子どもが増えてきた。お互い「いくで。」「ナイス。」等自然に声をかけ合う姿が見られた。また違うペアのナイスなプレイに「A君やるなあ。」と声をかけていた。褒められると嬉しいので、張り切って投げている。ドッチビードッジでも、特定の人だけが投げるのではなく、「投げていない人にも回そう。」と提案する子どもが出てきた。あまり投げるのが得意でない子どもにも回し、うまく投げられなくても、「ドンマイ。その調子。」とチームが

盛り上がる発言に、雰囲気は勝負だけでなく、とてもほのぼのする試合をしていた。3回目になると、コツをつかんだ子どもが、「こうすると、うまくいくで。」等、教えて合う場面が見られた。

今回、定期的にドッチビーに取り組んでみて、回数を重ねると子どもたちの上達が見られた。子どもたちもうまくなっていることを感じ自信を持って取り組み楽しんでいる様子が見られた。そして、自信があるとはほかの子どもたちと「どうしたら、上手に飛ばせるか。」と考え合う場面や教え合う場面、また自分のプレイだけでなく、周りの人を気遣う成長も見られた。

#### 4. おわりに

「合科」の時間は、ひばり学級の子どもにとって、楽しい時間の1つである。週初めには「火曜日は何するの？」等予定を確認して心づもりをする子どももいる。のりやはさみ等日常的に使う道具も「クラスの図工で使った。」と使い方を見せてくれる子どももいた。

班活動等を通して高学年が低学年に「こうするねん。」と教える場面も多く見られるようになってきた。

学年を超えて廊下等ですれ違おうと「やあ！」と声をかけ合う姿も見られる。子どもたちの中につながりが深まってきていることを感じた。

本年度は、いきいきと楽しく活動する子どもたちの様子をより多く保護者の方々にも見てもらえるように、体育館でのサーキットの時に、ひばり参観を実施した。家の人が見に来てくれたので、子どもたちはいつもにも増して、張り切る姿が見られた。広い場所で子どもたち同士が関わる姿を見て、「こういう表情もするんですね。」や「エネルギーを感じました。」等の感想をいただいた。学校で子どもたちと交流するのは保護者の方々にとっても新鮮な時間だったように感じる。

ひばり学級の「合科」の様子を通常の学級担任や学校の先生たちにも知ってもらうために合科新聞を作成している。子どもたちの成長を支えるために、さまざまな人たちが関わっている。子どもたちの活動や交流している様子や日々の取組等を発信していくことの大切さを改めて感じた。

今後も「合科」に取り組む際に、各教科と関連させながら、効果的な指導に努めるとともに、集団で活動する楽しさを味わったり、子どもたち同士の関わりの中で互いのいいところを見つけたり、互いのことを知り、互いに成長できるような機会をたくさん作っていきたいと考える。